

課題③ 年代が低いほど時間外勤務が長い。

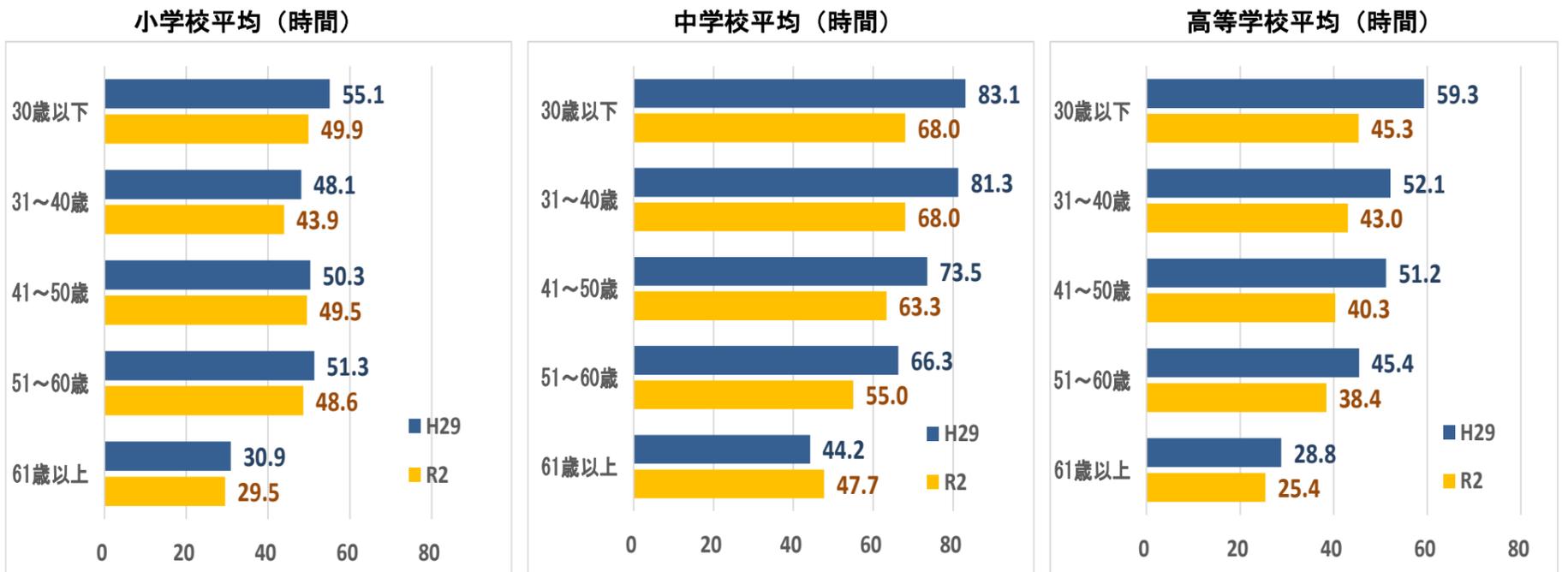
[ R2.3月 取組方針(改訂版) 3(3)より ] ※ は改定版で付加した部分

経験が少ない若手教員であっても、中堅・ベテラン教員と同様に担任業務を含め様々な業務を担当する必要があるため、児童生徒への指導や校務分掌についてのスキルが向上するまでの一定期間は勤務時間が長くなっているものと考えられる。

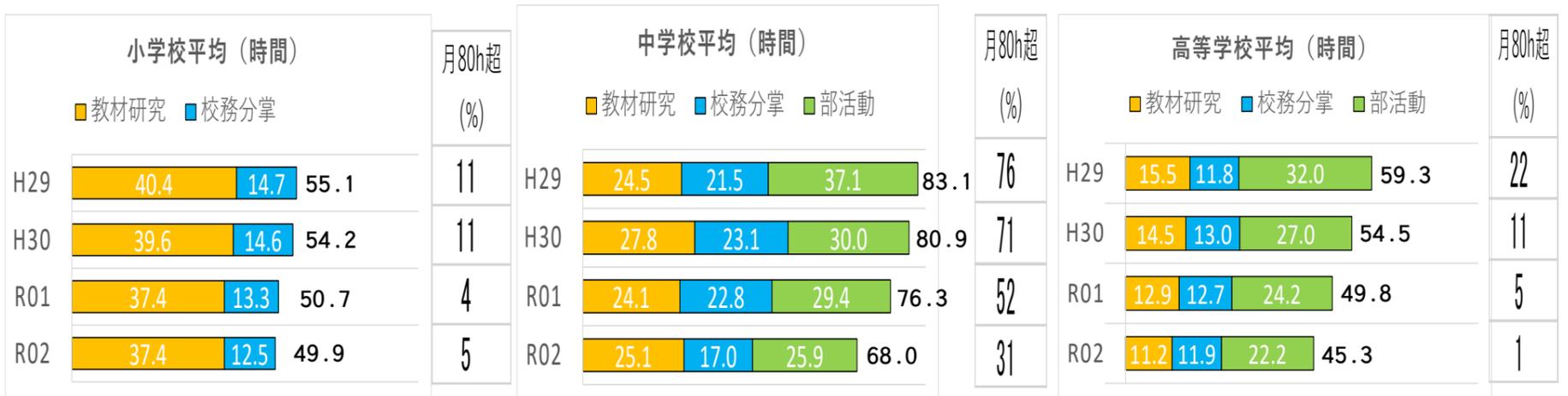
また、中学校・全日制高等学校においては、若手教員が熱心に部活動指導にあたり、そのことも大きな要因となっている。

若手教員早期育成プログラムにより、若手教員のスキルを早期に高め、効率よく業務を遂行できるよう育成する必要がある。

◆年代別教職員の時間外勤務時間の月平均〔勤務時間調査(H29、R2年10～12月)項目別集計 年齢別より〕



◆30歳以下教職員の時間外勤務時間の月平均〔勤務時間調査(H29-R2年10～12月)項目別集計 年齢別より〕



○すべての校種で年代が低いほど時間外勤務時間が長くなる傾向は依然としてあるが、30歳以下の若手教員についてみると、時間外勤務の月平均、月80時間超の割合はともに、全ての校種で減少した。

○これは、中学校、全日制高等学校においては部活動指導時間の縮減が大きな要因である。また、全ての校種において、R1年度から完全実施となった若手教員早期育成プログラムにより、校内で教材研究や校務分掌のアドバイスを受け効率的に業務を進めることができるようになったことも減少の要因と考えられる。今後も若手教員早期育成プログラムを推進していく必要がある。